



Anniversary
Kobe Bunka Hall

**神戸文化ホール
開館 50 周年記念事業
プレスリリース**

— Creating in Kobe 神戸で創る —

神戸文化ホール（指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団）

神戸文化ホール開館 50 周年にあたって

神戸文化ホールは 1973（昭和 48）年に開館し、本年開館 50 周年を迎えます。これまで当ホールをご利用いただきました全ての皆様に心より御礼申し上げます。

この 50 年を振り返りますと、神戸市は戦後の高度経済成長期に合わせ、豊かな伝統と美しい自然を背景に、世界有数の港町として大きく成長してまいりました。

また、1995（平成 7）年には、阪神・淡路大震災を経験し、厳しい時期を助け合い、励まし合いながら乗り越えてきました。

そして、平成を超え、令和の時代になり、社会はグローバル化、情報化社会が進展するとともに、新型コロナウイルスの出現により、世界中の景色が一変するような大きな影響を受けています。

このような様々な時代を神戸文化ホールは市民の皆様とともに歩みを進め、少しでも市民の皆様の心を豊かに、また元気になっていただけるよう、多種多様な芸術文化を発信してきました。

そうした文化芸術を創出するのは、アーティスト、その舞台を演出していく企業等の皆様、そして芸術文化を愛する市民の皆様ですが、神戸市は、文化芸術を創出するための舞台づくりや仕組みづくりにより、しっかりと役割を果たしていきます。

神戸市では、まちのリノベーションをはじめ、三宮などの都心の再整備、さらにはコミュニティの再生においても文化芸術をその中心のひとつにおいて、取り組みを進めています。

現在整備を進めている新・神戸文化ホールも、新しい時代を担うホールとして、また、国際都市神戸にふさわしい芸術文化の基幹施設として、輝ける神戸の未来に向けた「新たな価値を創り出す芸術文化創造拠点」となることを目指しています。

そのような未来を見据えながら、この度の神戸文化ホール 50 周年事業が、神戸が生み出した芸術家や芸術作品、神戸で活躍する芸術家に光をあて、さらに発展させ、新・神戸文化ホールに引き継がれていくことを期待しています。

ぜひ、神戸文化ホールに足をお運びいただきますようお願いいたします。

神戸市長 久元 喜造

神戸文化ホールで生まれ、醸成された神戸文化を次代へ

神戸文化ホールは、1973（昭和 48）年に開館し、おかげさまで本年 50 周年を迎えることができました。

開館以来、当ホールにお越し下さったお客さま、ご利用いただいた出演アーティストや関係者の皆さま、様々な形でホールを支えて下さったすべての皆さまに心より御礼申し上げます。

公益財団法人神戸市民文化振興財団は、1982（昭和 57）年に財団法人として設立されて以来、当ホールの管理運営に携わっており、文化の担い手は市民であるという基本姿勢のもと、市民の皆さまの協力と参画を得て、多くの芸術文化事業を展開しています。

当ホールは、これまでの 50 年を神戸市の発展とともに歩む中で、神戸の文化振興の拠点として役割を果たしてきました。1995（平成 7）年の阪神・淡路大震災や、全世界で猛威を振るっている昨今の新型コロナウイルス感染症など、一時閉館を余儀なくされた厳しい状況の中でも、文化芸術の力で神戸を元気づけようと、様々な公演や企画に取り組んできました。

私たちが 50 周年のテーマに掲げた「Creating in Kobe 神戸で創る」との言葉には、劇場が有する創意と知見、人的資源を最大限に活用して独自の企画制作を行い、神戸発の実演芸術として、市民の皆さまに共感・共鳴していただけるような神戸文化の魅力を発信したいという思いが込められています。それは当ホールがこの半世紀、市民の皆さまから寄せられてきた愛着や信頼にお応えすることであり、当ホールで生まれ、醸成された神戸文化を次代へ発展させることにつながると確信しているからです。

当ホールは施設の老朽化を受け、2027（令和 9）年度以降、三宮に新・神戸文化ホールとして段階的に移転することが決まっています。これからの劇場は、文化芸術を通じて人々が集い、交流する場所になることはもちろん、年齢や障がいの有無にかかわらず、あらゆる社会的状況の人々が気軽に文化芸術に触れられる機会を増やす工夫と努力が求められています。また、市内で活動するアーティストを支援し、アートマネジメント人材を育てる場としての機能もますます重要になっています。当財団としても社会包摂や人材育成など文化芸術の裾野を広げる試みに果敢にチャレンジしているところです。

50 周年の節目を迎え、今後も市民の皆さまが集う場所として、また、文化芸術を愛する方々を惹きつけてやまない場所として成長していけるよう、財団一丸となって努力して参ります。

引き続き神戸文化ホールをご愛顧、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 神戸市民文化振興財団
理事長 服部 孝司

記念事業について

2023年10月1日、神戸文化ホールは開館50周年を迎えます。指定管理者である（公財）神戸市民文化振興財団は、これを記念し、2023年度から2025年度の3年間をかけて記念事業を主催し、神戸からの発信を行います。

3年間のシリーズ企画趣旨

神戸文化ホールのこれまで、そしてこれからをみずえた企画を制作します。神戸が生み出した芸術家、芸術作品、神戸で活躍する芸術家などの貴重な文化資産、そして市域をこえた近隣地域の芸術活動にも焦点をあて、これまで神戸文化ホールが積み重ねてきた歴史に学びそれを刷新しながら、神戸で実演芸術を新たに創り出すことがその目的です。そして神戸から日本各地、世界へと発信し、新・神戸文化ホールにバトンを渡していきます。これにより、地域で暮らす人々の心と生活をより豊かにしていくことをめざします。神戸の力を結集したオペラ、コンサート、演劇、コンテンポラリーダンスなど、神戸文化ホールがプロデュースする「開館50周年シリーズ」にご期待ください。

■シリーズ・テーマ

2023年度 | 港町讃歌 大澤壽人没後70年、神戸ジャズ100周年

古くから海外との交流が盛んな港町・神戸。神戸から世界へと活躍した作曲家・大澤壽人が第2次大戦末期、秘密裏に書いたのは慣れ親しんだキリスト教の音楽作品でした。演劇・舞踊では、戦争の時代20世紀前半のドイツの名作を21世紀に再創作した平和を希求する舞踊作品、日本初のジャズバンドを生んだ神戸ならではの新作演劇、筒井康隆原作の「ジャズ大名」をお届けします。まさに“創る”極致の「天地創造」（ハイドン）も登場します。

2024年度 | **劇場讃歌** シェイクスピア生誕460年

2025年度 | **人間讃歌** 戦後80年、阪神・淡路大震災30年

50周年ロゴマークについて

【デザイン】鈴木大義 Hiroyoshi Suzuki / デザイナー



Anniversary
Kobe Bunka Hall

■デザインコンセプト

「袖幕」は出番を待つ出演者が観客から見えないようにする布製の仕切りです。袖幕に囲まれた空間である「舞台袖」を抜けると、パフォーマンスが始まります。すなわち舞台袖は舞台の表と裏の「境界」となります。私はこの「境界」を、「境界線」と考え、物事が始まる「スタートライン」と捉えました。そしてコンセプトである「新しい時代は、いつも舞台袖から」というデザインコンセプトができました。

神戸市室内管弦楽団 神戸市混声合唱団 ガラ・コンサート「神戸から未来へ」

没後 70 年 神戸が生んだ天才作曲家・大澤壽人の幻の作品

《ベネディクトゥス幻想曲》 ついに上演！ ～戦火のもとに密かに作曲された魂の作品

2023 年は神戸文化ホール開館 50 周年の記念年です。それを祝し、神戸市が誇るふたつの演奏団体によるガラ・コンサートを開催します。指揮台に迎えるのは、世界で活躍する山田和樹。日本人作品にこだわった特別プログラムです。注目は、神戸が生んだ不世出の作曲家・大澤壽人の『ベネディクトゥス幻想曲』。これは戦時下に秘密裏に書かれた作品で、演奏会上演としては世界初となります。加えて神戸市出身の作曲家神本真理の新作『暁光のタペストリー』、地元の若き語り手が加わる武満徹の名作、そして子供たちの元気な歌声、まさに祝宴！

■ 概要

【日時】 2023 年 5 月 19 日（金） 18:30 開演（17:45 開場）

【出演】 指揮：山田和樹

ヴァイオリン：高木和弘（神戸市室内管弦楽団コンサートマスター）

アコーディオン：大田智美

語り：宇田琴音

管弦楽：神戸市室内管弦楽団

合唱：神戸市混声合唱団

神戸文化ホール 50 周年記念児童合唱団（特別編成）

【プログラム】

武満 徹：「系図—若い人たちのための音楽詩—」（岩城宏之編曲・室内管弦楽版）【演奏】室内管

アコーディオン：大田智美、語り：宇田琴音

大澤壽人おおさわひさと：「ベネディクトゥス幻想曲」（演奏会として世界初演）（1944）

ヴァイオリン：高木和弘 【演奏】室内管+混声合唱団

武満 徹：「うた」より 【演奏】混声合唱団

神本真理：「暁光のタペストリー」（委嘱新作・世界初演）【演奏】室内管

山本直純：「えんそく」 【演奏】児童合唱団+室内管

【会場】 神戸文化ホール 大ホール

【料金】 [全席指定] S 席 5,000 円、A 席 2,000 円、U25（25 歳以下）1,000 円

【発売日】 2023 年 1 月 27 日（金）より

【チケット販売場所】 神戸文化ホールプレイガイド TEL.078-351-3349 他

【主催】 神戸文化ホール（公益財団法人 神戸市民文化振興財団）

【協賛】 学校法人神戸女学院

【協力】 兵庫県合唱連盟

【後援】 神戸新聞社

サントリー芸術財団推薦コンサート

■ 問い合わせ：（公財）神戸市民文化振興財団

プロフィール

メッセージ

神戸市がプロフェッショナルのオーケストラと合唱団の両方を有していることは、世界的に見ても極めて稀なことだと思います。このように文化発信の土壌がとても豊かに育ってきた神戸の地で、文化ホールの 50 周年記念の演奏会の指揮者を務めさせていただくことを大変光栄に思っています。

音楽は時間あつての芸術ですが、現在と過去と未来の“時の間”の旅を皆様と一緒にできたらと思います、特別に日本人作曲家に特化したプログラムを考えました。日本から世界へ、いや宇宙へ、というのは私の活動のスローガンでもあるのですが、そこには“時の間”の旅だけではなく“空の間”の旅もできればという欲張った想いがあります。

そして、時間と空間とを超えたところで、“人之間”に彩りを添えることができたらと思うのです。人が集ってこそそのコンサートホール。神戸文化ホールにおいて生まれる一期一会の出逢いを大切にできればと思っています。

山田和樹

山田和樹 Kazuki Yamada (指揮)



©Yoshinori Tsuru

2009 年ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなく BBC 交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・プラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮。以降、世界の主要オーケストラに客演を重ねている。2012 年から '18 年までスイス・ロマンド管弦楽団の首席客演指揮者を務めた他、2016/17 シーズンから、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督に就任。2018/19 シーズンから首席客演指揮者を務めるバーミンガム市交響楽団では、'23 年 4 月から首席指揮者兼アーティスティックアドバイザーに就任。同団とは'22 年 7 月に BBC プロムスにデビュー、'23 年 6 月には日本公演を予定している。10 年にわたり日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者を務めた他、現在は読売日本交響楽団首席客演指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長などを務めている。東京藝術大学指揮科で松尾葉子・小林研一郎の両氏に師事。出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、実行委員会代表を務めた『柴田南雄生誕 100 年・没後 20 年 記念演奏会』が文化庁芸術祭大賞、日本フィルハーモニー交響楽団と行った『山田和樹マーラー・ツィクルス』が芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。

高木和弘 Kazuhiro Takagi (ヴァイオリン) *神戸市室内管弦楽団コンサートマスター



©八木毅

6歳よりヴァイオリンを始め、国内外で数々のコンクールに優勝及び入賞を果たす。主な賞歴としては1997年度ブリュッセルで行われたエリザベト王妃国際コンクール入賞、1998年ジュネーヴ国際コンクール第3位(1位なし)などが挙げられる。国内では、2005年度文化庁芸術祭新人賞、大阪文化祭賞大賞受賞、2007年度第19回ミュージック・ペンクラブ音楽賞オーディオ部門録音作品賞を受賞。これまでに和波孝禧、森悠子、エドワード・ウルフソン、エドワード・シュミダーの各氏に師事。現在、長岡京室内アンサンブルメンバー、ダラス室内交響楽団コンサートマスター(ダラス、アメリカ)、いずみシンフォニエッタ大阪メンバー、A Hundred Birdsのヴァイオリニストとしても演奏活動を展開中。2021年4月より神戸市室内管弦楽団コンサートマスターに就任。使用楽器は株式会社シーエヌコーポレーションエイフクより貸与された1739年製サント・セラフィン。

大田智美 Tomomi Ota (アコーディオン)



©Jumpei Tainaka

10歳からアコーディオンを江森登に師事。高校卒業後に渡独し2009年folkヴァンク音楽大学ソリストコースを首席で卒業、ドイツ国家演奏家資格を取得。御喜美江に師事。またウィーン私立音楽大学でも研鑽を積む。帰国後は、ソロや室内楽、新曲初演、オーケストラとの共演等、国内外での演奏活動と共に、日本各地の音楽大学で講義を行うなどアコーディオンの普及にも尽力し、この楽器の魅力と可能性を発信している。近年では、読売日本交響楽団、東京都交響楽団定期公演、東京・春・音楽祭、サントリーホールサマーフェスティバル、NHKFM ベストオブクラシック等に出演。CDリリースやレコーディング参加も多く、その確かな技術と音楽性を高く評価されている気鋭のアコーディオン奏者である。

宇田琴音 Kotone Uda (語り)



2008年兵庫県出身。〈映画〉「天使のいる図書館」主人公の幼少時代役(2017年)。「食べる女」桃井由有羅役(小泉今日子主演)(2018年)。「10万分の1」桜木莉乃(幼少期)役(2020年)。〈ドラマ〉NHK広島放送局開局90年ドラマ「夕凧の街 桜の国」石川七波役(2018年)。他、雑誌で表紙を務める等幅広く活動。2016年8月、ランウェニスタコレクション『関西ステージ準グランプリ』、9月、スタースカウト総選挙『実行委員会特別賞』受賞。

メッセージ

神戸文化ホール・開館 50 周年記念ガラ・コンサートによせて

神戸文化ホール・開館 50 周年、誠におめでとうございます。

記念すべき演奏会によせて、私が新作を書かせて頂く機会を賜わり、大きな喜びと責任を感じています。

私が生まれてから 18 歳までを過ごした神戸の街は、大学時代より東京、また、パリへも留学しましたが、最もホッとする場所でもあります。

特に、高校時代に得た友人・諸先輩方等との交流こそ、現在の私の創作活動に大きな影響をもたらしてくれていると言っても過言ではありません。

作品では、とある絵画が創作のヒントとなりましたが、その絵画から《夜明けからの発信》というキーワードへ、発想を膨らませました。

私の人生の基盤となる神戸での初演に向けて、生命体の誕生から様々な交錯を経て紐解かれていくようなタペストリーを、音楽でお聴かせしたいと思います。

神本真理

神本真理 Mari Kamimoto (作曲)



©Ayane Shindo

1975 年神戸生まれ。東京藝術大学・大学院、パリ国立高等音楽院にて学ぶ(作曲科、楽曲分析科、管弦楽法科を修了)。文化庁派遣芸術家在外研修員(2005-2006 年)。作曲を野田暉行、故・廣瀬量平、フレデリック・デュリユー、楽曲分析をミカエル・レヴィナス、管弦楽法をドニ・コーエンの各氏に師事。これまでに、東京フィルハーモニー交響楽団、いずみシンフォニエッタ大阪、アンサンブル室町、Ensemble InterContemporain, Aleph, Reconsil 等の団体、また、優れたソリストたちにより国内外で作品が演奏されている。自身のプロデュース公演《Les temps croisés》を 2009 年と 2013 年に開催。2020 年以降、室内アンサンブル作品や演劇作品を制作中。近年は〈残響を聴くこと〉を創作のテーマとしている。Babelscores より、楽譜が出版されている。

(<https://www.babelscores.com/MariKamimoto>)現在、東京藝術大学、国立音楽大学、各非常勤講師。

神戸市室内管弦楽団 Kobe City Chamber Orchestra

1981 年、神戸市が実力派の弦楽器奏者たちを集めて室内合奏団として設立。ゲルハルト・ボッセや岡山潔などを音楽監督に迎え、国内外の第一線で活躍する指揮者・ソリストとの共演を重ねる。

2018 年に管楽器群を加えて室内管弦楽団となった。2021 年に鈴木秀美が音楽監督に就任し、古典派音楽を中心に質の高いアンサンブルの追求を続けている。神戸文化ホールを拠点に、定期演奏会、姉妹団体である神戸市混声合唱団との合同定期演奏会の他、地域へのクラシック音楽普及など、公共の楽団としての活動も精力的に行っている。

神戸市混声合唱団 Kobe City Philharmonic Chorus

1989年に神戸市が設立した日本では数少ないプロフェッショナル合唱団。豊富なレパートリーをもち、密度が高く澄みきった美しいハーモニーは高い評価を得ている。2010年にはラトヴィアの室内合唱団「アヴェ・ソル」と姉妹合唱団協定を締結した。神戸文化ホールの専属団体であり、年に2回の定期演奏会のほか、姉妹団体である神戸市室内管弦楽団との合同演奏会も行う。2021年4月より佐藤正浩が音楽監督に就任。プロ合唱団としてさらなる飛躍に努めるとともに合唱を通して音楽文化向上の取り組みを行うなど、文化振興や社会公益活動にも注力している。

大澤壽人 (1906-1953)

神戸が生んだ天才作曲家・大澤壽人

戦時中に書かれた幻の作品が、ついに神戸で鳴り響く！



神戸女学院所蔵資料
「大澤壽人遺作コレクション」

1906年神戸市生まれ。父は神戸製鋼所創業時からの技術者。母はクリスチャンで、キリスト教に囲まれた環境で育った。関西学院を卒業した30年に米国ボストン大学へ。33年日本最初期の《ピアノ協奏曲》、34年日本初の《コントラバス協奏曲》や大作《交響曲第1番》などを完成。クーセヴィツキに実力を認められる。同年10月、仏国に渡り、パリで邦人初の自作自演の大演奏会を開催。イベールやオネゲルなどが来場、絶賛を博した。36年帰国。しかし先鋭の作風が理解されず、愛国的でないと批判された。戦局が悪化するなか44年《ベネディクトゥス幻想曲》を秘密裏に作曲（戦後NHKラジオで2回演奏）。神戸女学院の教壇に立ち続け、ラジオや映画、宝塚や松竹の音楽、ジャズ風協奏曲から校歌に至るまで多彩な作品を創作。戦後、時代の寵児として活躍していた53年に急逝。

(監修：生島美紀子)

[ベネディクトゥス幻想曲についてはこちら](#)



「大澤壽人」プレ解説講座／講演会を開催

■解説講座

幻の天才大澤壽人と《ベネディクトゥス幻想曲》-魂の音楽 没後 70 年に復活初演-

大澤壽人研究の第一人者が作品背景などを詳説。

【日時】2023年2月5日（日）14:00 開始

【会場】神戸市立中央区文化センター 会議室（11 階）

【講師】生島美紀子（大澤資料プロジェクト代表・神戸女学院大学非常勤講師）

【受講料】500 円・要事前申込み

【申し込み】①または②の方法で、事前にお申込みください。

①電話申込み TEL.078-351-3597 （神戸市民文化振興財団 文化振興課）

②WEB 申込み <https://www.kobe-bunka.jp/hall/50th/news/38/>

※お申込締切：2月3日（金）17:30 まで

プロフィール

生島美紀子（大澤資料プロジェクト代表・神戸女学院大学非常勤講師）

スタンフォード大学大学院修了、音楽学で日本人初の Master of Arts 取得。大阪大学大学院にて博士号取得。神戸女学院所蔵「大澤壽人遺作コレクション」3 万点を学術調査し、目録『煌きの軌跡』は 2008 年音楽クリティック・クラブ特別賞。以降、作品展主催や展示会監修、講演会などを行い、同氏の音楽の普及活動にあたっている。2017 年『天才作曲家大澤壽人』を出版。朝日新聞社書評者による「今年の 3 点」に挙げられる。現在、大澤資料プロジェクト代表、神戸女学院大学非常勤講師。

■片山杜秀・講演会

没後 70 年、大澤壽人を語る

没後半世紀以上忘れられた存在であった大澤を「再発見」したのは、音楽評論家片山杜秀と神戸新聞記者藤本賢市であった。この講演会では、専門家である片山が大澤作品の魅力を語り、藤本氏も登壇して当時を回顧する。

【日時】2023年4月16日（日）14:00 開始

【会場】神戸市立中央区文化センター 多目的ルーム（1 階）

【講師】片山杜秀（慶應大学教授・音楽評論家）、ゲスト：藤本賢市（神戸新聞文化財団）

【受講料】無料・要事前申込み

【申込み】往復はがきに、申込代表者・同伴者（3 名まで）の

①氏名 ②住所 ③電話番号 を明記の上、下記の宛先までお送りください。

宛先：〒650-0016 神戸市中央区橋通 3 丁目 4-3

（公財）神戸市民文化振興財団「大澤壽人 特別講演会」係

<2023年3月28日（火）必着>

中学、高校生を「未来シート」に無料ご招待（事前申込・先着順・学校単位）

神戸市内を中心とする中学校、高校の学生のための「未来シート」を設け、ご招待いたします。
音楽による神戸の歴史、未来を若い感受性がとらえる機会となることを狙いとします。

○学校単位でのお申し込みを受付します。

○当日は教員（2名程度）の引率のもとにまとめてご来館、ご退館をお願いいたします。
席は主催者側が指定します。

○演奏会後は、参加学生の皆さんにアンケートにご協力（任意）をお願いいたします。

お申し込み方法

メールに下記の内容を記載の上、お申し込みください。

①学校名・ご担当者名

②ご連絡先（メールアドレス、電話番号）

③希望枚数（生徒+引率者分）

④引率代表者名・ご連絡先

⑤引率教員の2023年4月16日（日）講座（※下記）の参加希望の有無・参加人数
追って、仮決定のご連絡をいたします。（最終確定は4月15日（土）になります）

申し込み先（専用メールアドレス）：kobemiraiseat@gmail.com

《申し込み最終締め切り 2023年4月13日（木）》

定員に到達した場合、最終締め切り前に募集を終了することがあります。

※引率教員の方の学生への事前レクチャー等のご参考として、2023年4月16日（日）開催講座
「没後70年大澤壽人を語る」（講師：片山杜秀）に1校2名様までをご招待いたします。

緑のテーブル 2017 ～神戸文化ホール開館 50 周年記念 Ver.～

戦争時代 20 世紀前半ドイツの名作を再創作。時を越えて伝えるダンス。

1932 年に近代ドイツを代表する振付家クルト・ヨースにより生み出された「緑のテーブル」をもとに、神戸を拠点に国内外で活躍する振付家 岡登志子が 2017 年に完全オリジナルとして創作発表。「反戦バレエ」とも呼ばれる原作の精神を受け継ぎ、現代社会に生きる私たちの感性や身体性を通して、人間の営みにおける普遍的なものを問いかけ浮かび上がらせる。

■ 概要

【日時】 2023 年 10 月 21 日（土） 15:00 開演（14:30 開場）

【会場】 神戸文化ホール 中ホール

【出演】 貞松融（特別出演）、垣尾優、中村恩恵、
糸瀬公二、桑野聖子、松村有実、アントニオ・シュテッカー、
堤悠輔、武藤天華、大門智、岡登志子（ほか）

【スタッフ】 構成・振付・演出：岡登志子

美術：廣中薫

照明デザイン：吉本有輝子

舞台監督：大田和司

音響：西川文章

【料金】 【全席指定】 一般 4,000 円、U25（25 歳以下） 2,500 円、高校生以下 1,000 円

【チケット販売場所】 神戸文化ホールプレイガイド TEL.078-351-3349 他

【主催】 神戸文化ホール（公益財団法人 神戸市民文化振興財団）

■ 問い合わせ：（公財）神戸市民文化振興財団 TEL.078-351-3397

プロフィール

岡登志子 Toshiko Oka



アンサンブル・ゾネ主宰。ドイツ NRW 州立 Folkwang 芸術大学舞踊科卒業。1993 年より神戸を拠点にドイツで習得したダンスメソッドを実践しながら、現代を生きる人間に共通する身体を通し、人間の実存を問う作品づくりを行っている。2010 年より大野一雄フェスティバルに毎年参加。2014 年神戸長田文化賞、2018 年 KOBE ART AWARD 大賞、神戸市文化賞受賞。近作に「2022 空 そこはかとなんく刻々に」（2022）、ピアニスト高瀬アキとの共作「キッチン」（2022）

貞松融 Toru Sadamatsu



貞松・浜田バレエ団代表。1932年生まれ。戦争の経験から「芸術は人を裏切らない」という思いで舞台芸術の世界に飛び込む。法村康之、松山樹子、マリカ・ベゾブラゾヴァに師事。フランス、モナコ、イギリス、アメリカ、中国に研修及び短期留学。1998年舞踊文化功労賞、2008年橘秋子賞・功労賞、2012年文化庁長官表彰、2022年第70回舞踊芸術賞受賞。

中村恩恵 MEGUMI NAKAMURA



©大河内禎

ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞受賞後渡欧。モンテカルロ・バレエ団等を経て、イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターに所属し世界を牽引する振付作家達の創作に携わる。振付家として精力的に活動しながら、後進の育成にも熱心に携わっている。2007年より、活動拠点を日本に移し振付家としての活動を精力的に展開。2011年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年服部智恵子賞、2018年紫綬褒章等多数の受賞歴を持つ。

垣尾優 MASARU KAKIO



モダンダンスや大野一雄の舞踏などに強く影響を受けながら、音楽や哲学、映画やストリートカルチャーなどの現代の様々な分野の表現にも影響を受け、独自の解釈し身体化した動きに定評がある。2004年より岡登志子主宰アンサンブル・ゾネの作品にゲスト出演。2006年、塚原悠也とcontact Gonzoを立ち上げ、2009年まで活動。FIDCDMX(メキシコ)ソロダンスコンペティションに選出(2018年)。垣尾優ソロダンス『愛のゆくえ』(2019年)『それから』(2021年)発表。

神戸市室内管弦楽団 神戸市混声合唱団 合同定期演奏会 ハイドン：オラトリオ《天地創造》

まさに“創る極致”の「天地創造」！

年に一度開催している神戸市室内管弦楽団と神戸市混声合唱団の合同定期演奏会を、2023年度は開館50周年記念事業としてお届けします。2021年にヘンデルの《メサイア》で年末の神戸を沸かせた鈴木秀美&チーム神戸が、2023年にお届けするのは《天地創造》。ロンドンで《メサイア》はじめヘンデルのオラトリオを聞いたハイドンが刺激され作曲したこの作品は、まさに《メサイア》の後に採り上げるべき作品。開館50周年を彩るにふさわしい豪華ソリストがそろいました。注目度急上昇中のソプラノ隠岐彩夏、日本を代表するテノール櫻田亮、神戸ではもはやおなじみ、実力派バス氷見健一郎とともに、鈴木秀美が得意とするハイドンの大作に挑みます。

■ 概要

【日時】2023年12月16日（土）14:00開演（13:15開場）

【出演】指揮：鈴木秀美

独唱：隠岐彩夏（ソプラノ）、櫻田亮（テノール）、氷見健一郎（バス）

管弦楽：神戸市室内管弦楽団、合唱：神戸市混声合唱団

【プログラム】ハイドン：天地創造 Hob.XXI-2

【会場】神戸文化ホール 大ホール

【料金】[全席指定] S席 5,000円、A席 2,000円、U25（25歳以下）1,000円

【発売日】2023年8月中旬予定

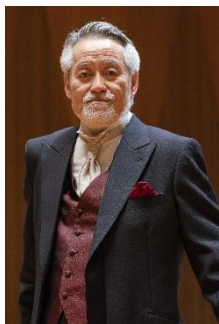
【チケット販売場所】神戸文化ホールプレイガイド TEL.078-351-3349 他

【主催】神戸文化ホール（公益財団法人 神戸市民文化振興財団）

■ 問い合わせ：（公財）神戸市民文化振興財団 TEL.078-361-7241

プロフィール

鈴木秀美 Suzuki Hidemi（指揮/神戸市室内管弦楽団音楽監督）



©K.Miura

神戸生まれ。チェロ、指揮、執筆、録音ディレクター、後進の指導と活動は多岐にわたりサントリー音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞ほか多数を受賞。主要な古楽団体でメンバーや首席奏者を務めた。2001年《オーケストラ・リベラ・クラシカ》を創立し、自身のレーベル《アルテ・デラルコ》からその録音や室内楽等をリリース中。国内外のオーケストラに指揮者及びソリストとして客演。著書に『古楽器』よ、さらば!（音楽之友社）、「ガット・カフェ」「無伴奏チェロ組曲」（東京書籍）、「通奏低音弾きの言葉では、」（アルテス・パブリッシング）などがある。現在は山形交響楽団首席客演指揮者、東京音楽大学チェロ科客員教授、東京藝術大学古楽科講師を務めている。楽遊会弦楽四重奏団メンバー。また、神戸市室内管弦楽団（設立当時は神戸室内合奏団）の創立メンバー（副指揮者・首席奏者）でもある。2021年4月より神戸市室内管弦楽団音楽監督に就任。

隠岐彩夏 Oki Ayaka (ソプラノ)



岩手大学教育学部卒業後、東京藝術大学大学院音楽研究科修士、博士後期課程修了。イタリア、ウィーン等で研鑽を積み、文化庁在外派遣研修員としてニューヨークで研鑽を重ねる。日本音楽コンクール第1位、岩谷賞（聴衆賞）、E.ナカミチ賞受賞。三菱地所賞、東奥文化選奨受賞。友愛ドイツ歌曲コンクール第1位、文部科学大臣賞受賞。歌曲やオラトリオに幅広いレパートリーを持ち、コンサートソリストとして活躍。またオペラでは『愛の妙薬』アディーナ、『ラ・ボエーム』ミミ、ムゼッタ等を演じている。NHK「クラシックTV」「リサイタル・ノヴァ」等のメディアや「ディズニー・オン・クラシック」にヴォーカリストとして出演する等幅広く活躍中。二期会会員。

櫻田亮 Sakurada Makoto (テノール)



©Ribaltaluce

東京藝術大学卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了後、イタリア国立ボローニャ音楽院に留学。イタリア各地でモンテヴェルディ作品出演の他、『オルフェオ』初演400年では世界的なヴィオラ・ダ・ガンバ奏者J.サヴァールらのグループとエジンバラ音楽祭等で共演。国内でもサヴァリッシュ指揮N響をはじめ、読響、新日本フィル等数多くのオーケストラと共演。バロックから古典派をレパートリーに国際的に高い評価を得ており、バッハ・コレギウム・ジャパンとはCD録音やコンサートの他、欧米ツアー等共演多数。第27回イタリア声楽コンクール、シエナ部門大賞受賞。2002年ブルージュ国際古楽コンクール第2位(声楽最高位)。東京藝術大学教授。二期会会員。

氷見健一郎 Kenichiro Himi (バス)



©井村重人

富山県出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程オペラ専攻修了。新国立劇場オペラ研修所修了。研修中にANAスカラシップ奨学生として、イタリア、ミラノスカラ座アカデミー、ドイツ、バイエルン州立歌劇場付属オペラ研修所（ミュンヘン）にて海外研修を受ける。バスソリストとして、バッハの《マニフィカート 二長調》、《マタイ受難曲》、モーツァルトの《戴冠ミサ》、《八短調ミサ》、《レクイエム》、ハイドンの《天地創造》、《パウケンミサ》、ベートーヴェンの《ミサ・ソレムニス》、《交響曲第9番》、フォーレの《レクイエム》に出演。オペラ出演多数。第12回北陸新人登竜門コンサート出演。第17回松方ホール音楽賞奨励賞受賞。

ジャズ大名

神戸ジャズ発祥から 100 年。 日本初のジャズバンドを生んだ神戸ならではの新作舞台。

筒井康隆の傑作小説『ジャズ大名』の舞台化。

ジャズとの出会いを描く物語を、生演奏とダンスの狂乱で送るコメディ作品。人を魅惑する音楽の悦びと妖しさが、大きな転換期を迎える令和の世に力強く鳴り響く！

神戸と並んでジャズで賑わう港町、神奈川・横浜の KAAT 神奈川芸術劇場等との連携企画。

福原充則コメント（上演台本・演出）

筒井康隆先生の小説、「ジャズ大名」を舞台化します。ジャズという言葉が生まれる前の、ジャズのような音の連なりに出会った大名と、周囲の人々の物語です。ジャズにも、大名にも興味がない方でも楽しめます。

何かに没頭している時間の美しさと狂気を、バンドの生演奏と共に楽しんで頂けたらと思っています。原作から少々設定を変え、神奈川県厚木にあった荻野山中藩を舞台に、史実をほんのり交えながらお送りいたします！

■ 概要

【日時】 2024 年 1 月上旬

【会場】 神戸文化ホール 大ホール

【スタッフ】 原作：筒井康隆 <「エロチック街道」(新潮文庫) 所収>

上演台本：福原充則 山西竜矢

演出：福原充則

音楽：関島岳郎

振付：北尾亘

【料金】 [全席指定] 未定

【発売日】 未定（2023 年夏以降予定）

【チケット販売場所】

神戸文化ホールプレイガイド TEL.078-351-3349 他

【主催】 神戸文化ホール（公益財団法人 神戸市民文化振興財団）

※公演内容を変更する場合がございますので、ご了承ください。

■ 問い合わせ：(公財) 神戸市民文化振興財団 TEL.078-351-3397

■神戸文化ホール開館 50 周年記念ホームページを開設

記念ホームページでは、記念事業に関する最新情報を随時更新しています。

また、神戸文化ホール開館の歴史年表を公開するほか、神戸文化ホールや神戸にゆかりのある著名人からのお祝いメッセージを紹介しています。

ぜひご覧ください。

【URL】<https://www.kobe-bunka.jp/hall/50th/>



<問い合わせ先>

■ガラ・コンサート「神戸から未来へ」 / ■ハイドン：オラトリオ「天地創造」

(公財) 神戸市民文化振興財団 事業部 演奏課 [TEL.078-361-7241]

■緑のテーブル / ■ジャズ大名

(公財) 神戸市民文化振興財団 事業部 文化ホール事業課 [TEL.078-351-3397]